瀬田川と田上山系がはぐくむ歴史文化

石山　南郷　大石
田上　上田上　青山

知ってるかな？ 地元の歴史

瀬田川と田上山系がはぐくむ歴史文化

石山寺縁起絵巻 巻１第３段（石山寺提供）

縄文時代から奈良時代

この地域は、瀬田川と大戸川をはじめとする支流と草津川の上流から開発の進む青山、松が丘にまたがり、南には湖南アルプスとも呼ばれる田上山系をひかえた、石山、南郷、大石、田上、上田上、青山の各小学校区からなります。古くから人々が住んでいたことは、縄文時代の石山貝塚や蛍谷遺跡からわかります。江戸時代には、石山寺領内で弥生時代の銅鐸が発見されました。「石山寺縁起絵巻」の石山寺創建の場面にも、宝鐸（銅鐸か）がみつかった様子が描かれています。また、枝古墳群をはじめとする多くの古墳があり、石居には７世紀後半に建立された石居廃寺跡が残されています。太子の地名も、聖徳太子ゆかりの寺があったことに由来するといわれています。

琵琶湖からただひとつ流れ出る瀬田川は、古代から「国」の下に置かれた行政区画である「郡」のなかで、西の滋賀（志賀）郡と東の栗太（くるもと、くりもと、くりた、など）郡の境界となっていました。その瀬田川の西岸にあるのが、石山寺です。石山寺は奈良の東大寺の造営に尽力した良弁の創建と伝わり、境内のいたるところに国の天然記念物である硅灰石があります。地名も寺の名前もこれに由来することは間違いないでしょう。東大寺を建てるにあたって、「大石」や「田上」の山々から木材を切り出し、瀬田川から木津川を流して奈良へ運ばれました。これ以前にも、藤原京の造営に材木が調達されたことが、『万葉集』の歌で知られています。

大石の地名は、大石中にある佐久奈度神社が「忌伊勢払度大神宮」と呼ばれ、「忌伊勢」が

なまったものとも、瀬田川の急流から顔を出す多くの大きな石によるともいわれます。佐久奈度神社の場所は、平安時代には、天皇にふりかかる病気などの悪いものをはらう「七瀬祓所」のひとつに数えられていました。江戸時代に赤穂事件で主君の仇討ちをした大石内蔵助良雄の先祖は大石の出身で、大石氏の館跡と伝える場所や大石東の浄土寺には大石家先祖の墓が残されています。また、田上とは、現在の田上と上田上をあわせた地域の地名で、農業の神様として信仰を集めた太神山＝田神山が地名となって、田上の字をあてるようになったとも、古くは「谷上」とも書き、奈良方面から瀬田川沿いに谷を進んだ先に開けた地であるためともいわれます。

奈良へのルートには、陸路で瀬田川の東側を南に下り関津峠を越える田原道があり、峠付近には857（天安元）年に逢坂関（藤尾～逢坂学区）、龍華関（伊香立学区）とならんで大石関が置かれました。関津峠の先は、西に道をとって小田原から禅定寺（宇治市）を経て山城（京都府南部）に向かいますが、東に道をとれば信楽から伊賀・伊勢（ともに三重県）へと通じます。信楽への道沿いには、富川の磨崖仏、春日神社や常信寺などがあり、戦国時代には峠に関津城が築かれました。

平安時代

平安時代になると、石山寺へは、宇多法皇、藤原道長、紫式部、和泉式部などが参詣し、1005（寛弘２）年、藤原道長は「田上厩舎」を宿泊場所としています。石山寺への参詣は、やがて西国三十三所観音霊場をめぐる観音巡礼となり、12番札所岩間山正法寺（岩間寺）、13番札所石山寺、14番札所園城寺（三井寺）という巡礼ルートができると、多くの人にひろがりました。また、江戸時代の初めに近江八景のひとつに「石山秋月」が選ばれると、石山寺の名は広く知れ渡りました。

この地域では、奈良時代の僧泰澄によって開かれた岩間山正法寺（岩間寺）をはじめ、空海によって創建されたという立木山安養寺（立木観音）や、三井寺を再興した円珍が創建した不動寺も信仰を集めました。

平安時代後期の歌人で、白河法皇の命令によって編まれた勅撰和歌集『金葉和歌集』の撰者として知られる源俊頼は、田上に滞在して詠んだ和歌77首を集めて『田上集』をまとめました。その中には、「もちゐの宮」（里の毛知比神社）、「むろの八島」（黒津の八島）などが、読みこまれています。

↑ 毛知比神社（里五丁目）

鎌倉時代・室町時代

平安時代から鎌倉時代にかけて、全国で荘園がひろがります。この地域では、鎌倉時代から室町時代の荘園として、大石の龍門庄、大石庄、曽束庄、田上・上田上の田上中庄、田上牧庄、田上杣庄などが古文書の中に登場します。石山寺領の寺辺、国分、南郷において、1197（建久８）年に年貢などを徴収するため、土地の調査が行われました。南郷の地名は、奈良時代から平安時代にかけて滋賀郡に置かれた４郷のひとつ、古市郷の中で一番南にあったからと考えられます。

瀬田川と大戸川の合流するあたりの浅瀬には、古くから朝廷に湖魚を献上するための簗（魚をとるしかけ）がしかけられて「供御瀬」とも呼ばれました。供御瀬は瀬田川の浅瀬で、歩いてわたることのできる軍事上の重要な場所でもあり、戦乱の地となりました。1184（寿永３）年の源範頼軍による源（木曽）義仲の追討、1221（承久３）年の承久の乱、1335（建武２）年の後醍醐天皇軍と足利尊氏軍の戦闘など、東国から都に攻め入る軍勢にとっては、上流の瀬田橋とこの供御瀬での攻防が勝敗の分かれ目となりました。

安土桃山時代・江戸時代

1583（天正11）年、浅野長吉（長政）は豊臣秀吉から所領を与えられますが、この地域の富川、里、森、羽栗、桐生、中野、牧、関津、太子が含まれていました。江戸時代になると、寺辺村が石山寺領、羽栗村の一部が伊勢菰野藩領であったほかは、膳所藩の領地となりました。膳所藩は数か村単位に地域の有力者を郷代官に任命して村々を支配しました。重税に対して、大石義民の事件もおこっています。

村々の負担は領主へ年貢を納めるだけではありませんでした。1761（宝暦11）年の記録によれば、東海道大津宿の伝馬や人足を補うために、この地域では、平津、千町、南郷、内畑、外畑、龍門、淀、大石中、東、羽栗、森、枝、里、黒津、太子、関津、桐生、牧、平野、中野、芝原、堂、新免の23か村に、「助郷」「増助郷」が割り当てられていました。

瀬田川は両岸に平津、関津、黒津、稲津と港を示す地名が残るように、人や荷物を舟で運ぶことに使われ、黒津の簗で捕るウナギに代表される漁場でもありました。

しかし、大雨が降ると瀬田川や大戸川が増水し、水害をもたらしました。とくに、大戸川は田上山系から流出した土砂が川底にたまり、洪水をひきおこしました。1708（宝永５）年の洪水は、中野と芝原に大きな被害をもたらし、両村は山手の現在地に移転しました。琵琶湖周辺の村々を水害から守るためにも、江戸幕府は何度も瀬田川の川浚えを行いました。なかでも1698（元禄11）年から翌年にかけて、河村瑞賢の指導によって大規模な工事を行いましたが、水害がなくなることはありませんでした。1831（天保２）年の工事によってやっと琵琶湖の水位が下がり、洪水の心配も少なくなりましたが、工事の費用が農民に重くのしかかりました。

また、江戸時代には新田開発も進められました。1650（慶安３）年に大戸川沿いの森村の近くに今村新田が、1810（文化７）年からは平津・千町・南郷の３か村にまたがる八幡野に赤尾新田が開発されました。

明治時代から現代

明治時代になって、地方自治の制度が整えられ、1889（明治22）年に市制町村制がしかれ、石山村、大石村、上田上村、下田上村が誕生しました。1903（明治36）年の国鉄東海道線石山駅の開設、1914（大正３）年の大津電車（現京阪電気鉄道）の浜大津－蛍谷（現石山寺）の開通による交通網の整備、1926（大正15）年の東洋レーヨン創設などにより、石山村の北部地域を中心に人口が増加しました。その結果、石山村は1930（昭和５）年に石山町となり、1933（昭和８）年に大津市と合併、1936（昭和11）年には、石山尋常高等小学校からわかれて晴嵐尋常小学校が開校しています。

田上山の砂防工事は政府の直轄事業となり、昭和時代にかけて草津川上流のオランダ堰堤、天神川上流の鎧堰堤をはじめ、多くの砂防ダムが築かれ、植林も進められました。1974（昭和49）年の瀬田川砂防100年をきっかけに、青山、上田上、田上、大石の４小学校と日本フィンランド学校が参加する、卒業記念植樹も始まりました。

砂防百年の碑（枝三丁目）

瀬田川の洪水対策も、1896（明治29）年の琵琶湖大洪水がひきがねとなり、1905（明治38）年に瀬田川の流れを調節するために南郷洗堰がつくられました。瀬田川の水を利用することも考えられ、1913（大正２）年には南郷から宇治へ水路を通して宇治川水力発電所がつくられ、大戸川でも1911（明治44）年に滋賀県内初の発電所として、牧発電所（現大戸川発電所）が建設されました。

太平洋戦争を経て戦後復興が進められるなか、大石村と下田上村は1951（昭和26）年に大津市と

合併しました。上田上村は、当時の経済的なつながりから、1955（昭和30）年に瀬田町と合併、1967（昭和42）年に大津市と瀬田町、堅田町が合併したことで、この地域全体が大津市となりました。1961（昭和36）年に滋賀大学学芸学部（後の教育学部）の平津への移転や、1966（昭和41）年の南郷水産センターの開業も、大きなできごとでした。

戦後復興から高度経済成長、バブル経済の中で、大津市でも宅地開発が進められました。この地域では、1966（昭和41）年に石山団地の造成がはじまり、その後の人口増加で、1979（昭和54）年に南郷小学校が石山小学校からわかれて開校しています。さらに、1980（昭和55）年ごろには桐生から草津市にまたがる湖南丘陵で大規模な宅地開発がはじまり、1992（平成４）年には上田上小学校からわかれて青山小学校が開校しています。

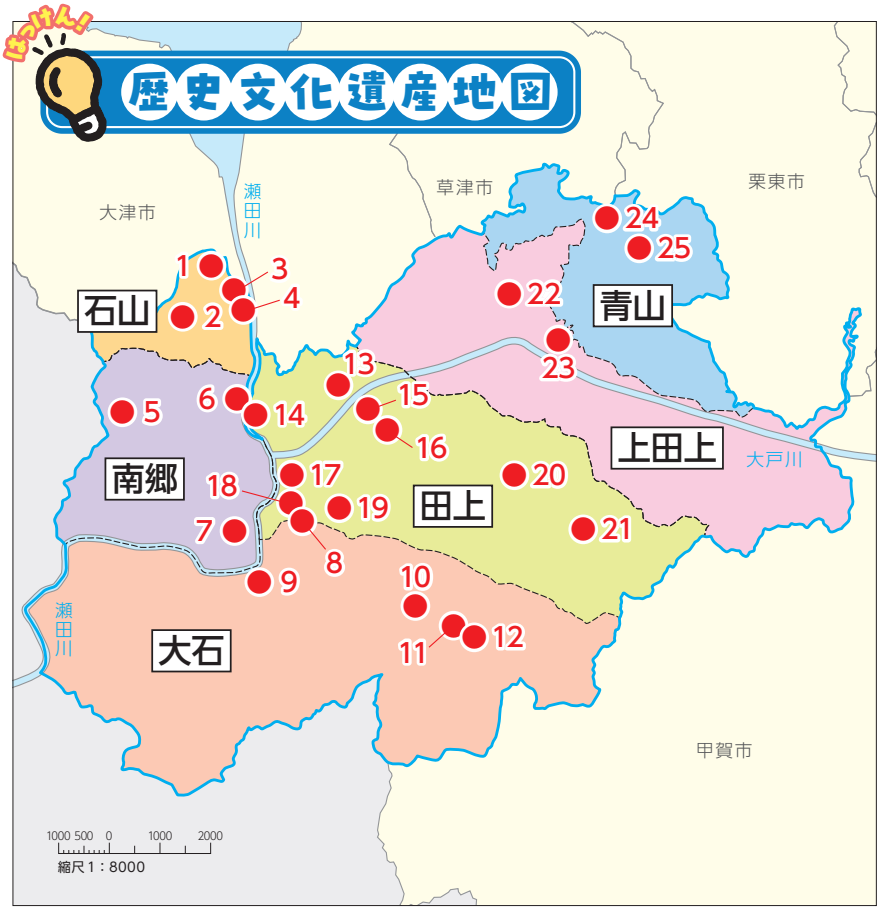
瀬田川の河川改修も進められ、1961（昭和36）年、南郷洗堰の南120ｍほどの位置に新たに瀬田川洗堰が建設されました。旧洗堰はその役割を終えましたが、両岸に堰の一部が残されました。1964（昭和39）年には下流に天ヶ瀬ダムが建設され、石山の外畑、大石の東・中・淀・曽束の一部が移転しています。大戸川でもダムの建設が計画され、大鳥居と桐生の一部が移転しました。

建設の進む新名神高速道路では、大石にサービスエリアとスマートインターチェンジの開設が予定されており、関津トンネルや令和大橋をはじめとする周辺道路の整備や、大戸川ダムの建設により、この地域は大きく変わろうとしています。

<table>
<tr><th>1889年
(明治22)</th><th>1930年
(昭和5)</th><th>1933年
(昭和8)</th><th>1951年
(昭和26)</th><th>1955年
(昭和30)</th><th>1967年
(昭和42)</th></tr>
<tr><td>石山村</td><td>石山町</td><td colspan="4" rowspan="4">大津市</td></tr>
<tr><td colspan="3">大石村</td></tr>
<tr><td colspan="3">下田上村</td></tr>
<tr><td colspan="4">上田上村</td><td>瀬田町</td></tr>
</table>

行政単位の変遷

瀬田川洗堰（黒津四丁目）



NO	歴史文化遺産名称	場所
1	蛍谷遺跡	石山寺一丁目
2	一老坊遺跡	石山寺四丁目ほか
3	石山寺	石山寺一丁目
4	石山貝塚	石山寺三丁目
5	岩間山正法寺（岩間寺）	石山内畑町
6	旧南郷洗堰	南郷一丁目ほか
7	立木山安養寺（立木観音）	石山南郷町
8	大石義民碑	大石東一丁目
9	佐久奈度神社	大石中一丁目
10	富川の磨崖仏 (耳だれ不動、岩屋不動尊)	大石富川町
11	常信寺のハツカドウ	大石富川一丁目
12	春日神社	大石富川一丁目
13	石居廃寺跡	石居一丁目
14	みずのめぐみ館 「アクア琵琶」	黒津四丁目
15	安楽寺の石造浮彫宝塔	枝一丁目
16	枝古墳群	枝四丁目
17	関津浜常夜灯	関津一丁目
18	関津遺跡	関津一丁目ほか
19	関津城跡	関津三丁目
20	鎧堰堤	田上森町
21	不動寺	田上森町
22	田上の衣生活資料 (田上郷土史料館)	牧一丁目
23	大戸川発電所	上田上牧町
24	正休寺の梵鐘	桐生一丁目
25	オランダ堰堤	上田上桐生町

縄文時代　弥生時代

	紀元前一万年	紀元前六五〇〇ごろ	晩縄文期	紀元前三〇〇ごろ	五七	二三九
日本のできごと	狩りや漁をして暮らす			日本へ稲作と金属器が伝来	倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を授かる	卑弥呼が魏に遣いを送る
大津市のできごと		●石山貝塚、●蛍谷遺跡、粟津湖底遺跡がつくられる	滋賀里遺跡などで集落が営まれる	早期	前期・中期 南滋賀遺跡などで方形周溝墓がつくられる	後期 高峯遺跡など湖西南部に高地性集落が出現し、中畑田遺跡などで集落が営まれる

（●は当地域に関わること）

歴史文化遺産 地図番号 4 石山貝塚

石山寺三丁目　縄文時代

石山貝塚周辺（石山寺三丁目）

石山寺の前、観光駐車場のあたりに広がっている貝塚で、縄文時代早期の遺跡です。現在もとれるセタシジミのほか、コイ、フナ、スッポン、イノシシなどの動物の骨、埋葬された人骨も出土しました。また、この地域でつくったとみられる土器のほか、近畿、東海、さらに関東地方の土器が見つかっており、広い範囲での交易の様子がわかります。大津市の史跡に指定されています。

歴史文化遺産 地図番号 1 蛍谷遺跡

石山寺一丁目　縄文時代

蛍谷遺跡周辺（石山寺一丁目）

京阪電車石山寺駅の南側に広がるのが蛍谷遺跡です。縄文時代前期の貝塚で、縄文時代早期の石山貝塚との関連が考えられます。また、蛍谷遺跡からは旧石器時代の石器も出土しています。この石器は、滋賀県内でも最古級の人工物です。瀬田川西岸のこの地域では非常に古い時代から人々が暮らしていたことがわかります。

貝塚は、石山寺駅から石山寺へ向かう道の歩道の山側が一段高くなった部分に、今も現地で保存されています。

歴史文化遺産 地図番号 2 一老坊遺跡出土の銅鐸

弥生時代

一老坊遺跡出土の袈裟襷文銅鐸（石山寺提供）

1806（文化３）年に、寺辺村（石山寺四丁目周辺、一老坊遺跡）より出土したと伝わる銅鐸（袈裟襷文、高さ90.9cm）です。現在は石山寺に所蔵されており、国の重要文化財に指定されています。

弥生時代の銅鐸については、このほかに、崇福寺跡（滋賀里町）や石山寺創建の際（１頁参照）に見つかったと伝わりますが、これらの実物はわかりません。この一老坊遺跡出土の銅鐸が、市内で見つかった現存する唯一のものです。

古墳時代						飛鳥時代								
三世紀後半	四世紀	景行五八	五三八	五九三	六〇四	六〇七	六四五	六六三	六六七	六六九	六七二	六九四	七〇一
前方後円墳の出現	大和朝廷が日本を統一し始める		仏教が伝わる	聖徳太子が摂政となる	十七条憲法の制定	法隆寺の建立	大化の改新	白村江の戦い	大津宮へ遷都		壬申の乱	藤原京へ遷都	大宝律令の制定
前期	中期		後期										
壺笠山古墳、皇子山一号墳、和邇大塚山古墳などがつくられる	膳所茶臼山古墳、西羅古墳、真野古墳、木の岡古墳群などがつくられる	志賀の高穴穂宮に都を移すという	坂本から錦織地域に百穴古墳群や穴太野添古墳群など渡来系氏族の群集墳が出現 春日山古墳群、曼陀羅山古墳群などで鉄製武器類が副葬される							●佐久奈度神社が創建されたと伝わる		●藤原京造営の木材が大石、田上の山々から切り出される	

歴史文化遺産 地図番号 16

枝古墳群

枝四丁目　古墳時代

枝古墳群（枝四丁目）

枝古墳群では、直径10～15mほどの大きさの８基の円墳が見つかっています。それぞれ、死者を埋葬する空間として、横穴式石室がつくられていました。これらは、古墳時代後期（６世紀）につくられたものです。４～５世紀は、全国で有力な人物のお墓として主に巨大な前方後円墳がつくられました。その後、枝古墳群のように小さな古墳がまとまってつくられるようになります。人骨は長い年月で無くなってしまうことが多く、古墳にどのような人物が埋葬されたのか、くわしくはわかりません。しかし、一緒に納められた土器、アクセサリー、武器などの品々が見つかることもあります。

歴史文化遺産 地図番号 13

石居廃寺跡

石居一丁目　飛鳥時代～

石居廃寺跡（石居一丁目）

７世紀後半から平安時代にかけて、この地にあった寺院の跡です。当時の寺院名が伝わっていないので、地名をとって「石居廃寺」と呼んでいます。石積みのある基壇が残されており、東西11.7m、南北7.0mの大きさです。その上には柱を置くための19個の礎石が残っていました。これは、寺院の金堂跡と考えられています。また、塼仏や塑像という土でつくった仏像や、瓦、泥塔などの寺院にかかわるものが出土しています。寺院跡と、その出土品は大津市の文化財に指定されています。

歴史文化遺産 地図番号 9

佐久奈度神社

大石中一丁目　飛鳥時代～

佐久奈度神社（大石中一丁目）

佐久奈度神社は、669（天智天皇８）年に創建されたと伝わります。平安時代から天皇の穢れ（病気などの悪いもの）をはらう祓所として知られていました。現在の建物は1964（昭和39）年の天ヶ瀬ダム建設にともなって移転されたものです。

佐久奈度神社境内から南に１kmほど離れた場所にある御旅所の社殿は、鎌倉時代の旧本殿の部材を使って江戸時代に建てられました。そのため、鎌倉時代の装飾（蟇股）を今に伝えており、大津市の指定文化財になっています。

	七五五	七五二	七四七	七四〇前後	七二二	七二〇	七一二	七一〇
日本のできごと		東大寺大仏の開眼供養				『日本書紀』ができる	『古事記』ができる	平城京へ遷都
大津市のできごと	建部大社が瀬田の地に移るという		●良弁が聖武天皇の勅願により石山寺を開く	近江国庁が置かれる	●泰澄が岩間山正法寺を開く			

（●は当地域に関わること）

歴史文化遺産 地図番号 3

石山寺

石山寺一丁目　奈良時代～

石山寺本堂

石山寺多宝塔

石山寺源氏の間（石山寺提供）

石山寺は、奈良の東大寺造営に尽力した良弁が創建したと伝えられています。759（天平宝字３）年、淳仁天皇が平城京とならぶ都として保良宮を造営すると、宮を守る寺として整備が進められました。本堂は、滋賀県で一番古い平安時代の建造物で、国宝に指定されています。

本尊は、秘仏の如意輪観音で、国の重要文化財です。平安時代中期には宇多法皇、藤原道長をはじめとして、都から多くの参詣者があり、「石山詣」という言葉がうまれました。紫式部が石山寺で『源氏物語』を書き始めたという伝承は有名です。清少納言の『枕草子』にも、「寺は」の段に石山寺が登場します。鎌倉時代以後は武士の信仰も集め、国宝の多宝塔は鎌倉幕府を開いた源頼朝の寄進と伝えられます。本堂の外陣（礼拝する場所）は豊臣秀頼の母である淀殿によってつくられました。

また、石山寺は学問の寺でもありました。学問の神様として知られる菅原道真の孫にあたる淳祐が第３代の座主（住職）となって、仏教の研究にはげみ、その伝統が弟子たちによって受け継がれました。石山寺には国宝の「淳祐内供筆聖教（薫聖教）」をはじめとして多くの貴重な仏教関係の書物がのこされており、調査、研究が現在も進められています。

石山寺の観音信仰は、西国三十三所観音巡礼の13番札所として多くの人にひろがり、江戸時代になると、33年に一度、あるいは天皇の即位にあわせて扉が開かれ、秘仏の如意輪観音を拝もうとする人々が多く訪れました。江戸時代の初め、近江八景のひとつとして「石山秋月」が定められると、石山寺の名はますます広まりました。

明治時代の文豪島崎藤村は、1893（明治26）年に石山寺に『ハムレット』を奉納するという逸話を残しています。2024（令和６）年放映の大河ドラマ『光る君へ』は、紫式部を主人公とし、石山寺への参籠（祈願のためにこもること）もドラマの１コマをかざりました。

七五九	七八四	七八六	七九四	八〇五	八〇六	八一五
保良宮の造営	長岡京へ遷都		平安京へ遷都	最澄が帰国	最澄が天台宗を開く 空海が帰国	
		桓武天皇が滋賀郡に梵釈寺を建立する	近江国の古津を大津と改称する		日吉社が天台宗守護の護法神となる	嵯峨天皇が唐橋行幸、梵釈寺で僧永忠が茶を献じる ●空海により立木山安養寺が創建されるという

歴史文化遺産 地図番号 18

関津遺跡

関津一丁目ほか　奈良時代～

「田原道」跡（関津一丁目ほか、滋賀県提供）

旧石器時代から江戸時代まで続く遺跡で、特に奈良～平安時代の道路跡が注目されています。この道路は南北に向かってまっすぐ敷かれており、道の幅は約18ｍで、両側には溝がつくられていました。確認されている長さは315ｍになります。道の大きさや、奈良の平城京と近江を最短距離で結ぶルート上にあることから、古代の歴史書『続日本紀』に書かれた「田原道」と考えられています。また、道に沿って多くの掘立柱建物跡が見つかりました。近江国庁や保良宮、田上山作所などに関わる古代の施設が建ち並んでいたことが想像できます。

歴史文化遺産 地図番号 5

岩間山正法寺（岩間寺）

石山内畑町　奈良時代～

岩間山正法寺（石山内畑町）

岩間山正法寺は、722（養老６）年に泰澄によって開かれた寺院で、岩間寺とも呼ばれています。泰澄は岩間山で修行し、千手観音像をつくったと伝わっています。西国三十三所観音霊場の巡礼が盛んになると、岩間寺は12番札所として、後白河法皇をはじめ、多くの人々が訪れるようになりました。また、石山寺から京都の醍醐寺へとつながる岩間越えの道標が、各所に残されています。

歴史文化遺産 地図番号 12

春日神社

大石富川一丁目　平安時代～

春日神社（大石富川一丁目）

平安時代に創建されたと伝わる神社です。現在の本殿は鎌倉時代につくられており、国の重要文化財です。その本殿は、正面の柱が３本で中央に柱のある二間社という非常に珍しい形式になっています。江戸時代、富川村は膳所藩の支配地となり、春日神社も代々の膳所藩主から信仰されました。

時代	年	日本のできごと	大津市のできごと
平安時代	八五七		●近江国の相坂（逢坂）・大石・龍華の三か所に関を置く
平安時代	八五九		●不動寺が開かれる
平安時代	八六八		円珍が天台座主となり、園城寺を与えられる
平安時代	九三五	平将門の乱	
平安時代	九四六		逢坂山の坂の守護神である関蝉丸神社に蝉丸霊が合祀されるといわれる
平安時代	九九三		延暦寺より円珍門徒が園城寺に移る
平安時代	一〇〇五		●藤原道長が石山寺参詣に「田上厩舎」を宿舎とする
平安時代	一〇一六	藤原道長が政治の実権をにぎる	
平安時代	一〇九五		比叡山の僧兵が日吉神輿を押し立てて強訴
平安時代	一一五六	保元の乱	
平安時代	一一五九	平治の乱	
平安時代	一一六七	平清盛が太政大臣となる	
平安時代	一一七五	法然が浄土宗を開く	
平安時代	一一八四		粟津の合戦にて木曽義仲が戦死
平安時代	一一八五	壇ノ浦の戦い 平氏滅亡	
鎌倉時代	一一九二	源頼朝が征夷大将軍となる	
鎌倉時代	一一九四		●源頼朝が石山寺多宝塔を寄進する
鎌倉時代	一一九七		●石山寺が所領の調査をする
鎌倉時代	一二二一	承久の乱	●承久の乱で供御瀬が戦場となる
鎌倉時代	一二三二	御成敗式目	
鎌倉時代	一二六二		●大石庄と龍門庄との境相論が和解する
鎌倉時代	一二七四	元寇 文永の役	
鎌倉時代	一二八一	元寇 弘安の役	
鎌倉時代	一三三三	鎌倉幕府が滅びる	
鎌倉時代	一三三四	建武の新政	

（●は当地域に関わること）

歴史文化遺産 地図番号 7

立木山安養寺（立木観音）

石山南郷町　平安時代～

立木山安養寺（石山南郷町）

立木山安養寺は、815（弘仁６）年に全国を巡り歩いていた空海が瀬田川のほとりに立ち寄った際、山に光を放つ霊木を見つけて仏像を彫り、堂を建てて安置したことに始まるといいます。

この時、空海が瀬田川の急流を渡れずに困っていると、観音菩薩の化身である白い鹿が現れ、空海を背に乗せて川を渡り、立木山へ導いたとの伝承から、この場所が「鹿跳」と呼ばれるようになりました。

歴史文化遺産 地図番号 21

不動寺

田上森町　平安時代～

不動寺本堂（田上森町）

不動寺は、「田上不動」とも呼ばれ、太神山の山頂にあります。園城寺（三井寺）を再興した円珍によって859（貞観元）年に開かれたといわれています。

本堂は室町時代前期の建物で、国の重要文化財に指定されています。この建物は、建物の一部が岩に食い込むように建てられていて、石山寺や京都の清水寺のように、斜面に沿って柱が立つ懸造となっている点に特徴があります。

歴史文化遺産 地図番号 15

安楽寺の石造浮彫宝塔

枝一丁目　鎌倉時代

安楽寺の石造浮彫宝塔（枝一丁目）

安楽寺にある石造浮彫宝塔は、板状の花崗岩に彫られた宝塔で、大津市の指定文化財です。鎌倉時代につくられたと考えられ、高さ110cm、幅60cm、厚さ12cmあります。しかし、下方が欠けているので、当初は少なくとも高さ約150cmはあったと思われます。

仏画などに見られる宝塔の姿をよく表していて、塔には梵字が彫られ、上部はくびれて屋根を乗せています。屋根の立体的な表現も独創的で、鎖を下げたところまで彫り出しています。

一六〇〇	関ケ原の戦い	大津城の戦い
一五九二	豊臣秀吉が朝鮮出兵を始める	
一五九〇	豊臣秀吉が全国を統一する	
一五八八	刀狩令	
一五八六		このころ、坂本から大津に城が移される
一五八四		豊臣秀吉、延暦寺再興許可
一五八二	本能寺の変、豊臣秀吉の検地が始まる	坂本城落城後再建
一五七五		織田信長が瀬田橋をかける
一五七三	室町幕府が滅びる	
一五七一		織田信長による延暦寺焼き討ち、坂本城の築城
一五四九	キリスト教の伝来	
一五四三	ポルトガル人が鉄砲を伝える	
一四八六		真盛が西教寺に入寺
一四六八		延暦寺による堅田大責
一四六七	応仁の乱	
一四三三		永享の山門騒乱
一四〇一	明と貿易をはじめる	
一三九二	南朝と北朝がひとつになる	
一三七九		坂本の馬借が祇園社を襲撃
一三七八	足利義満が幕府を室町に移す	
一三六九		●富川の磨崖仏に紀銘がみられる
一三五四		●足利尊氏が瀬田川を渡るため田上の舟を集める
一三三八	足利尊氏が征夷大将軍となる	
一三三六	南北朝にわかれる	
一三三五		●供御瀬で後醍醐天皇軍と足利尊氏軍が戦闘

歴史文化遺産 地図番号 19

関津城跡

関津三丁目　鎌倉時代～

（関津三丁目、関津城跡遠景 滋賀県提供）

関津城は、承久の乱（1221）の際に戦功のあった宇野源太郎守治が幕府から恩賞として与えられたと伝わるものです。発掘調査では、大きく３つの曲輪からなる城跡が確認され、16世紀後半を中心とする土器などが出土しました。防御性の高い土塁などのほか、釘や金具、焼けたコメなど様々なものが出土したことから、城内では、戦いのためだけでなく日常生活や儀礼などといった様々なことが行われていたと考えられます。現在も関津トンネルへと続く道の横に土塁の一部が残っています。

歴史文化遺産 地図番号 10

富川の磨崖仏（耳だれ不動、岩屋不動尊）

大石富川町　鎌倉時代

富川の磨崖仏（大石富川町）

巨大な岩に彫られた仏像です。中央に阿弥陀如来像が、その左右に観音菩薩像と勢至菩薩像が、左下には不動明王像が刻まれています。中央の阿弥陀如来像の右耳から地下水がにじみ出ているのが耳だれのように見え、「耳だれ不動」とも呼ばれています。また、かつて、岩屋不動院明王寺というお寺があったことから、「岩屋不動尊」ともいわれています。大津市の史跡に指定されています。

歴史文化遺産 地図番号 24

正休寺の梵鐘

桐生一丁目　室町時代

正休寺の梵鐘（桐生一丁目）

正休寺の鐘楼に釣り下げられている梵鐘は、高さが143.8cmあります。全体は４段にわけてつくられ、龍頭（つるすために上段に取付けた龍の形をした部分）は別に取り付けています。

この梵鐘は、銘文によれば、室町時代の1491（延徳３）年につくられ、京都の北野天満宮に奉納された後、1869（明治２）年に正休寺の所有となりました。大津市の指定文化財になっています。

	日本のできごと	大津市のできごと
一六〇一		戸田一西が膳所城を築城
一六〇二		大津町が東海道の宿場町に指定
一六〇三	徳川家康が征夷大将軍となる	
一六〇九		●関津峠の人馬役の免除を願って富川村の彦治・源吾が幕府巡見使に訴える（大石義民）
一六一五	豊臣氏が滅びる 武家諸法度	
一六二四～一六四四		このころから大津絵の製作がはじまる
一六三五	参勤交代の制	大津祭狸山が建造される
一六三七	島原・天草一揆	
一六三九	鎖国の完成	
一六四二		延暦寺根本中堂などが再建される
一六五〇		●今村新田が開発される
一六五一		本多俊次が膳所城主となる
一六六二		寛文大地震、膳所城をはじめ各地で被害甚大
一六八五	生類憐みの令	
一六九四		松尾芭蕉が木曽塚に埋葬される
一六九八		堅田藩の誕生
一六九九		●河村瑞賢による瀬田川の川浚え
一七〇八		●大戸川の洪水により中野村・芝原村が現在地に移転
一七〇九	新井白石の政治	
一七一六	享保の改革	
一七三四		膳所藩士寒川辰清が『近江輿地志略』を編さん
一七七二	田沼意次が老中となる	
一七八七	寛政の改革	

（●は当地域に関わること）

歴史文化遺産 地図番号 17

関津浜常夜灯

関津一丁目　江戸時代

関津浜常夜灯（関津一丁目）

瀬田川の両岸には、稲津、黒津、関津（東岸）、大浜、平津、新浜（西岸）といった、「津」や「浜」の付いた地名が見られます。「津」は舟が停まる場所、「浜」は川沿いの平地のことで、瀬田川を上下する舟が着岸した場所です。現在のように自動車がなかった時代には、舟は人や荷物を運ぶための重要な交通手段でした。関津の地名は平安時代におかれた大石関に由来し、関津浜は大石方面から運ばれてきた木や柴を積み出した場所でした。この常夜灯は、瀬田川の舟運の歴史を伝える貴重なものです。

地域の風景

近江八景「石山秋月」

江戸時代～

歌川広重【魚栄板】「近江八景石山秋月」大津市歴史博物館蔵

近江八景は、近江南部を中心とした８つのすばらしい景色のことです。江戸時代初めごろに公家の近衛信尹が、膳所城から見える範囲で選んだとする説が有力となっています。近江八景は、屏風絵や絵画作品の画題として取り上げられ、初代歌川広重や葛飾北斎などが浮世絵として出版したことによって多くの人に知られるようになりました。近江八景のうち「石山秋月」は、琵琶湖上にのぼる満月が、湖面だけでなく、石山寺の本堂や多宝塔などを照らす秋夜の風景を表現したものです。

歴史文化遺産 地図番号 8

大石義民

大石東一丁目　江戸時代

大石義民碑（大石東一丁目）

江戸時代初めごろ、大石富川村の荷物を大津や京都に運ぶ時、関津浜から瀬田川を利用していました。しかし、関津浜を管理していた膳所藩は、利用者に重い税をかけていました。富川村の彦治と源吾は何度も税金を軽くするように膳所藩に訴えましたが、聞き入れられません。そこで、江戸幕府の役人が近くを通ったので直接訴えました。当時、幕府に直接訴えることは重い罪だったので、彦治と源吾ははりつけにされましたが、２人の訴えは認められました。２人の功績をたたえるため、大正８（1919）年に碑が建てられました。

一八八六		湖南汽船会社が設立
一八八五	伊藤博文が初代内閣総理大臣になる	
一八八二		太湖汽船会社が設立
一八八〇		京都―大津間に鉄道が開通
一八七八		京都―大津間に旧逢坂山トンネルが完成 ●草津川上流にオランダ堰堤が完成するという
一八七七	西南戦争	弘文天皇陵が定められる
一八七三	地租改正 徴兵令	このころ、各地域で学校が開校する
一八七二	学制発布	「滋賀県」が誕生 ●田上山系で砂防工事が始められる
一八七一	廃藩置県、岩倉使節団が欧米諸国の視察に出発	
一八六八	明治維新 神仏分離令が出される	大津代官所の廃止、大津裁判所の設置、大津県が置かれる
一八六七	大政奉還、王政復古	
一八六〇	桜田門外の変	
一八五九	安政の大獄	
一八五八	日米修好通商条約	
一八五四	日米和親条約	
一八五三	ペリーの浦賀来航	
一八五二		四ツ子川に百間堤が築かれる
一八四八		●千町村で山崩れがおこる
一八四一	天保の改革	
一八三七	大塩平八郎の乱	
一八三四		●初代歌川広重が浮世絵版画「近江八景」を出版
一八三一		●瀬田川浚えが行われる
一八一〇		●平津村、千町村、南郷村にまたがって赤尾新田の開発はじまる
一八〇六		●石山寺領内、字一老坊で弥生時代の銅鐸発見
一八〇四		大津―京都間の東海道に車石の敷設工事がはじまる、伊香立で龍骨が発見される

歴史文化遺産 地図番号 25

オランダ堰堤

上田上桐生町　明治時代～

オランダ堰堤（上田上桐生町）

草津川の上流につくられた砂防ダムで、滋賀県と大津市の文化財に指定されています。四角く切った石（花崗岩）を階段のように積みあげ、上流から流れてくる土砂をせき止めることで、今も災害を防いでいます。

オランダ堰堤の通称は、ダム建設について技術指導を行ったとされるオランダ人技師のヨハネス・デ・レーケに由来しています。

歴史文化遺産 地図番号 20

砂防ダム

明治時代～

鎧堰堤（田上森町）

明治時代の田上山は、木が少なく土が見える状態で、大雨が降れば土砂が流れ出し、水害を引き起こしました。そのため、オランダ堰堤以外にも、田上山周辺には多くの砂防ダムが作られました。天神川上流の田上森町には、鎧堰堤があります。石積みでつくられたこのダムを設計したのは、技師の田邊義三郎で、1889（明治22）年に完成したとされています。

災害を防ぐための砂防工事は、ダムだけでなく、木を植えたり護岸工事を行うなど総合的に行われ、田上山に緑が取り戻されていきました。

歴史文化遺産 地図番号 6

旧南郷洗堰

南郷一丁目・黒津四丁目　明治時代～

旧南郷洗堰の堰柱（黒津四丁目）

1896（明治29）年の琵琶湖大洪水をきっかけに、大規模な瀬田川の川浚えが行われたあと、1905（明治38）年に南郷洗堰がつくられました。長さ173mのレンガ造りで、幅3.6mの門が32門あり、門に角材を落としたり、引き上げたりすることで、瀬田川の流量を調節するものでした。これにより、琵琶湖周辺の洪水や渇水対策に効果を上げました。1961（昭和36）年には、南郷洗堰にかわり、瀬田川洗堰がつくられ、現在も使われています。旧南郷洗堰の一部は今も残されています。

明治時代　大正時代　昭和時代

	日本のできごと	大津市のできごと
一八八九	大日本帝国憲法発布	●石山村、大石村、下田上村、上田上村誕生、●鎧堰堤竣工
一八九〇	市制町村制施行	
一八九一	第一回帝国議会	琵琶湖疎水が完成
一八九四	日清戦争（～95）	大津事件
一八九六		琵琶湖大洪水
一八九八		大津市が市制を施行
一九〇一	官営八幡製鉄所操業開始	
一九〇三		●国鉄石山駅開設
一九〇四	日露戦争（～05）	
一九〇五		●瀬田川に南郷洗堰が完成
一九一〇	韓国を併合	
一九一一		●牧発電所（現大戸川発電所）建設
一九一二		京都三条大橋と大津札の辻間に京津電車が開通
一九一三		●宇治川電気の水路が竣工
一九一四	第一次世界大戦に参戦	●大津電車（現京阪電鉄）浜大津―蛍谷（現石山寺）開通
一九一八	米騒動 シベリア出兵（～22）	
一九二二	全国水平社結成	
一九二三	関東大震災	
一九二五	治安維持法の成立 普通選挙制	
一九三〇		●石山村町制施行
一九三一	満州事変	江若鉄道の浜大津―近江今津間が開通
一九三二		大津市と滋賀村が合併
一九三三		●大津市と膳所町・石山町が合併 雄松崎湖岸一帯が名勝地に指定される
一九三六		●石山尋常高等小学校からわかれて晴嵐尋常小学校が開校
一九三七	日中戦争	
一九三八	国家総動員法	
一九四〇		近江神宮の鎮座祭が行われる
一九四一	太平洋戦争（～45）	
一九四五	ポツダム宣言受諾	
一九四六	日本国憲法の公布	
一九五〇	朝鮮戦争（～53）	
一九五一	サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約	●大津市と雄琴・坂本・下阪本・大石・下田上村の一市五か村が合併
一九五三	テレビ放送開始	
一九五四	自衛隊の設置	
一九五五		堅田町と葛川・伊香立・真野・仰木村が合併 ●瀬田町と上田上村が合併、小松村・木戸村・和邇村が合併して志賀町が成立
一九五六	日ソ共同宣言	
一九六一		●滋賀大学学芸学部（後の教育学部）が平津に移転 ●瀬田川新洗堰が竣工 県立琵琶湖文化館が開館

（●は当地域に関わること）

歴史文化遺産 地図番号 23 大戸川発電所

上田上牧町　明治時代～

大戸川発電所（上田上牧町）

1911（明治44）年に完成した県内初の水力発電所で、当初は京都電燈株式会社が牧発電所として運転を開始しました。発電方法は水力で、大戸川から取り入れた水を約4kmの水路で運び、高所に貯めた水を下に落とすことで、タービン（水車）をまわして発電しています。発電所は今も現役で、レンガ造りの発電所建物は当初の姿で残されています。近くには、1914（大正3）年に運転を開始した、大鳥居発電所があります。

歴史文化遺産 地図番号 22 田上の衣生活資料

田上郷土史料館　牧一丁目　明治時代～

田上の衣生活資料（田上郷土史料館蔵）

田上・上田上で使用されてきた機織りなどの道具と衣服1,358点が「田上の衣生活資料」として国の登録有形民俗文化財になっています。田上絣や田上手ぬぐいといった地域特有の衣服と、糸をつむぐ作業から機織りまでの工程がわかる道具類です。これらは明治時代から昭和時代後期までの農家の女性の暮らしがわかる文化財として、田上郷土史料館に保管されています。

歴史文化遺産 地図番号 14 みずのめぐみ館「アクア琵琶」

黒津四丁目　平成時代～

アクア琵琶（黒津四丁目）

1992（平成4）年に旧南郷洗堰の東岸に開館した“みずのめぐみ館「アクア琵琶」”は、旧洗堰の実物大模型や田上山の砂防工事模型、琵琶湖のすがたや治水の歴史などを紹介したパネル、様々な映像などを通じて、琵琶湖と瀬田川の治水や田上山砂防の歴史を学ぶことができます。敷地を入ってすぐにある木造の小さな建物は、旧洗堰の看守所として1911（明治44）年につくられたもので、「アクア琵琶」の開館によって現在の場所に移されました。

二〇二四	能登半島地震	●紫式部を主人公とした大河ドラマ「光る君へ」が放映
二〇二二	東京オリンピック・パラリンピック	
二〇二八		大津市制一二〇周年
二〇一六	熊本地震	
二〇一一	東日本大震災	
二〇〇九		大津市が中核市へ移行
二〇〇六		大津市と志賀町が合併
二〇〇三	イラク戦争がおこる	大津市が古都指定
二〇〇二	日韓サッカーワールドカップ、日朝首脳会談	
一九九八	長野で冬季オリンピック	大津市制一〇〇周年
一九九七		琵琶湖総合開発事業が完了 ●上田上大鳥居町閉村式
一九九五	阪神淡路大震災	
一九九四		延暦寺が世界文化遺産「古都京都の文化財（京都市・宇治市・大津市）」として登録
一九九三	法隆寺、姫路城が世界文化遺産になる	
一九九二		●上田上小学校からわかれて青山小学校開校
一九九〇ごろ	バブル経済の崩壊	
一九八八		●京滋バイパスの開通
一九八七	国鉄分割・民営化	
一九八六	男女雇用機会均等法施行	湖西道路の一部開通
一九八四		学習船「うみのこ」本格運航を開始、世界湖沼環境会議が開催、風景条例を公布、中華人民共和国牡丹江市と友好都市提携、野離子川荒廃砂防ダムが完成
一九八一		びわこ国体の開催
一九八〇		●このころから湖南丘陵の造成はじまる
一九七九		●石山小学校からわかれて南郷小学校開校
一九七八	日中平和友好条約	
一九七七		琵琶湖に赤潮が発生
一九七四		国鉄湖西線の全線開通、近江大橋の開通
一九七三	石油危機	
一九七二	沖縄が日本に復帰、札幌で冬季オリンピック	琵琶湖総合開発特別措置法が施行
一九七〇	大阪万国博覧会	びわこローズタウンの開発
一九六九		●上田上に田上郷土史料館が開設
一九六八	小笠原諸島が日本へ復帰	びわこ大博覧会が開催
一九六七		●大津市と瀬田町・堅田町が合併
一九六六		●南郷水産センターの開設 ●石山団地造成開始
一九六五		サンケイバレイ（現びわ湖バレイ）が開業
一九六四	東海道新幹線開通 東京オリンピック	琵琶湖大橋が完成 ●天ケ瀬ダム竣工、外畑と大石東・中・淀・曽東の一部が移転

歴史文化遺産 地図番号 11

常信寺のハツカドウ

大石富川一丁目

常信寺のハツカドウ（大石富川一丁目）

常信寺では、毎年１月20日に豊作や家内安全を祈るハツカドウという行事が地域の人たちによって行われています。お供え物として、「テガタ」と呼ばれる直径約25cmの楕円形の餅と「アシ」と呼ばれる直径約15cmの餅、カエデの枝に餅を取りつけたまゆ玉をつくります。また、「常信寺牛玉宝印」と書かれたお札を印刷して、つくったお供え物と一緒に仏像の前にお供えし、参拝をします。お供え物の餅とお札は各家に配り、お札は１年間家の玄関に貼って家内安全を祈ります。

地域の食文化

菜の花漬け

菜の花漬け

上田上では、「黄金漬け」とも呼ばれる菜の花の漬物がつくられています。ごはんと混ぜておにぎりにする、細かく刻んでちらし寿司の具にするなど、食べ方はさまざまです。秋に菜の花の種まきをして、春、花が咲き始めるころに収穫をします。収穫した菜の花は塩や赤とうがらしと一緒に漬けこみ、約６ヵ月後に完成となります。それぞれの家庭によって、漬ける方法に違いがあり、味も異なります。

地域の行事

山の神行事

山の神行事（大石淀）

山の神行事は、炭焼きや茶の栽培など山仕事の安全を願うとともに、山の神は春になると里へ下って田の神になり、秋には山へ行って山の神になるという伝承から豊作を祈る行事です。南郷や田上、大石地域をはじめ、大津市の全域で行われています。田上の枝では、12月と正月の２度、山の神行事が行われており、正月には、カシの木でつくった人形を安置し、神木の横に勧請縄というしめ縄を掛けて、男性のみが参拝します。

	小学校
年	組　　番
名 前	

凡例

・本書は地域学習のため、各学区の歴史や歴史文化遺産について説明したものです。
・年表は日本のできごと、大津市のできごとを示し、本書に関わることについては印をつけています。
・執筆は大津市市民部文化財保護課および大津市歴史博物館職員が分担し、編集は文化財保護課にて行いました。
・本書の作成にあたり、各文化財所有者の方々にご協力いただきました。

発　行／大津市
発行日／令和7年3月21日
印刷・デザイン／株式会社冨士印刷